

## 令和元年度第4回理事会議事概要

日 時 : 令和元年7月12日(金) 15:30～16:00

場 所 : 森林総合研究所特別会議室

出席者 :	理事長	沢田 治雄
	理事(企画・総務・森林保険担当)	柳田真一郎
	理事(研究担当)	坪山 良夫
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	上 練三
	理事(森林業務担当)	猪島 康浩
	理事(法令遵守担当)	井田 裕之
	監事	鈴木 直子
	監事	平川 泰彦
	総括審議役	吉野 示右
	総括審議役	高橋 和宏
	総括審議役	石原 聡
	審議役	合田 和弘
	企画部長	河原 孝行
	総務部長	永山 正一

## 1. 開会

(吉野総括審議役)

令和元年度第4回理事会を開催いたします。

本日は審議事項が1件、報告事項が5件です。それでは順次説明をお願いいたします。

## 2. 議事

### I-1 令和元年度・2年度会計監査人候補者の選定について

(柳田理事)

会計監査人の候補者の選任の手続きについては、本年3月8日の理事会承認後、提案書の募集及び候補者の選定手続を進めてきました。

会計監査人候補者審査委員会におきまして、PwCあらた有限責任監査法人を選定したことから、理事会で承認後、監事の同意を得て、農林水産大臣への選任請求を行うこととなります。

今回は2年間ということで募集をしたところですが、農林水産大臣への選任請求は、各事業年度ごとに行うこととなります。

1としてPwCあらた有限責任監査法人を候補者とししました。

2として、候補者とした理由ですが、提案書の募集公告を当法人のホームページに掲載したところ、PwCあらた有限責任監査法人ほか1者から提案書の提出ありました。各監査法人からの企画提案書に基づき、監査実績、監査体制、監査費用等の定量的評価と、監査の取組方針、監査手法、監査のサポート体制等の定性的評価を行いました。また、当法人が、研究開発業務（研究・育種勘定）、水源林造成業務等（水源林勘定、特定地域整備等勘定）及び森林保険業務（森林保険勘定）と3つの異なる分野の業務を実施していることを、認識いただいているかどうかを念頭に入れながら審査を行いました。

2者のうち、PwCあらた有限責任監査法人は、定量的評価及び定性的評価のいずれにおいても優れ、また、独立行政法人等の監査実績を持ち、監査計画についても詳細かつ具体的であったことから、同監査法人を当法人の会計監査人候補者として選定しました。

(井田理事)

審査の中で、同監査法人の監査がやや淡泊な印象があったとの指摘がありましたが、経理部門に確認したところ、E-mailや電話等で必要な対応十分にあったとのことであり、安心していいのではないかと思います。

(鈴木監事)

定量的にも定性的にもPwCあらた有限責任監査法人が優れていて、金額的にも安かったとのことですが、定量的にも定性的にも優れていて、金額が大きかった場合は、定量的、定性的の点数を優先するものなのではないでしょうか。

(柳田理事)

加算の方法がありまして、定量的、定性的それぞれの項目ごとに加算があり、価格についても両者の価格の平均値の差額を見て点数化しています。必ずしも安いから良いのではなく、内容的にあまり差がない場合は、金額が大きい場合も評価として、選定される場合もあります。

(鈴木監事)

ありがとうございました。

(吉野総括審議役)

令和元年度と二年度にPwCあらた有限責任監査法人を監査人候補として農林水産大臣への選定申請を行わせていただきます。特にご意見がないようでしたら、理事会として議決させていただきます。

## Ⅱ－１ 通則法第３８条に基づく大臣提出資料について

(柳田理事)

通則法第３８条とは、当該年度（平成３０年度）の貸借対照表や損益計算書等の財務諸表等を当該事業年度終了後３ヶ月以内に主務大臣に提出して、承認を得なければならないことになっています。あわせて、資料１６ページに記載がありますが、PwCあらた有限責任監査法人から独立監査人の監査報告を、提出資料２１ページに記載がありますが、監事からの監査報告を併せて、大臣に報告することとなっています。決算につきましては６月１３日の理事会で説明を受け、承認をいただいているところです。

今回は財務諸表に監査法人による監査報告書、監事の監査報告を添付し、提出したことを報告いたします。

(吉野総括審議役)

財務諸表の内容については皆様ご承知いただいているところですが、監査報告書が添付されていますので、監事の方から何かありますでしょうか。

(平川監事)

特段お話しすることはありません。

## Ⅱ－２ 特定母樹等普及促進会議の開催について

(上理事)

特定母樹等普及促進会議とは、特定母樹の普及を各地域で促進をするということで、情報交換や共同研究を目的として毎年度開催しているところです。３の開催予定にもありますとおり、北海道から九州まで地区ごとに開催し、関東地区の８月をスタートに東北地区の１０月が最後になります。次のページに参考として、関東地区の会議資料を添

付させていただきました。山梨で開催し、森林管理局、署、都県、団体や企業、機構内の各組織の関係者も含め50名程度参加いただき、一日目は室内での意見交換、二日目は現地検討会を行う予定とし開催させていただきます。

## Ⅱ－３ 森林研究・整備機構債券の償還完了について

(猪島理事)

森林研究・整備機構では、平成21年度に第2回森林研究・整備機構債券を発行していましたが、第2回機構債券47億円の償還が令和元年6月20日に完了し、これをもってすべての機構債券の償還が完了しました。発行体及び既発債券の格付けはともに「AA」ということで、国債は「AA+」なので若干落ちることになりますが、そのような格付けを取得しています。

これまで債券発行及び格付け取得にあたっては、機構内の各部門の皆様に資料の作成、提出等ご協力をいただきましたことを改めてお礼を申し上げたいとおもいます。

また、今回完了を持ちまして、今後格付け評価は取得しないということでご了承いただければと思います。

(沢田理事長)

債券を発行してきた中で何か問題になったとはなかったのでしょうか。

(猪島理事)

何もありませんでした。

## Ⅱ－４ 森林整備センターの全国安全週間の取組について

(猪島理事)

全国安全週間にあわせて、森林整備センター役職員の労働安全に対する意識の向上等を図る取組を行っています。

ひとつめは役職員の労働安全意識の向上等を図る取組のため、安全衛生対策に関する意見交換会を各職場にて実施しました。また、保護具・救急薬品等の点検・補充、防災体制等の確認も行っております。安全教育として林野庁の講師2名を招き講話を実施しました。

ふたつめは事業者に対する労働安全指導の取組では、平成30年度は平成29年度に比べ6件減の24件発生しているところですが、今年度に入りまして、6月末までに4件の労働災害が発生しております。昨年度の同月末の8件比べ半分に減少しています。

今回8月施行される労働安全衛生規則の改正において、伐木作業において受け口を作るべき立木の対象を胸高直径40cm以上のものから20cm以上のものへ拡大することや下肢の切創防止用保護衣の着用等が義務化されたことを踏まえ指導を徹底してきたところです。

労働安全の確保、人命尊重というのは事業面の基本ですから引き続き職員、事業体の

労働安全の確保について呼びかけていきたいと思っています。

(鈴木監事)

補足になるかわかりませんが、監事監査で三重県等の中部の整備局に行ってきたのですが、昨年までは白いヘルメットだったものが、猟銃での事故があったことから黄色いヘルメットになっていました。防護具についてあまり知識がなかったのですが、ヘルメットの脇の部分に笛がぶら下がっていて、いつでも笛が吹けるようになっていました。

(柳田理事)

4件の事故ですが、地域性とかがあるのでしょうか。

(猪島理事)

まだ件数が少ないため、今年度については確認できていませんが、過去の経緯を分析したところ、事業体により偏りが見えてきています。

(鈴木監事)

現場の方としては、昨年当初に立て続けに8件の災害があり、そこを抑えると、皆さんの意識が続いたので、今年度は4件になったので、今年は意識が高まっているのではとの話がありました。

## Ⅱ－5 令和元年度保険料収入及び保険金支払の実績について

※石原森林保険センター所長から本件の説明が行われた。

ほかに質問がないようでしたら、これで令和元年度第4回理事会を終了いたします。  
次回は8月9日（金）に森林整備センターで行います。

## 3. 閉会